様式第１号（第４条関係）

2019 年 12 月 18 日

病院長選考会議議長　殿

推薦代表者
寺尾　岳　㊞

病院長候補者の推薦について

国立大学法人大分大学医学部附属病院長の選考に関する規程（平成２９年規程第４７号）第４条の規定により，下記の者を別添病院長候補者推薦書のとおり推薦します。

記

病院長候補者　三股　浩光　㊞

病院長候補者推薦書

(ふりがな) 氏名（年齢）	（みまた　ひろみつ） 三股　浩光（ 59 歳）
現　職 （又は最終職名）	大分大学医学部腎泌尿器外科学講座教授、副病院長（先端医療・研究担当）

推薦理由

大分大学医学部附属病院（以下、本院と略）・病院長として、三股教授を推薦いたします。私は、三股教授と 15 年あまりの長きにわたり親交を深めて参りましたが、大分大学医学部や本院に関し、事あるごとに忌憚なく議論しつつも、互いの意見の違いを尊重し、是々非々の関係で付き合っております。そのような経緯や、私自身が精神科医であることから人柄の評価には私の専門性も発揮できると考え、推薦状を書かせていただきました。推薦理由に関して、附属病院長の選考基準（第 3 条）に従って、以下に説明します。

1) 三股教授は非常に大きなリーダーシップを有する温かい人柄で、面倒見がよく、人望があります。進取の精神にも富み、特に単孔式腹腔鏡手術は初期より開始し、全国規模の学術集会や臨床研究を行って本邦をリードしています。
2) 教育面では、学部学生の臨床実習や講義、大学院生の教育指導はもちろんのこと、基礎教育部会員として学生教育に関与しました。教授就任後 24 名が入局し、多数の泌尿器科専門医や泌尿器腹腔鏡技術認定医、透析専門医等を育成しています。若い学生や医局員を育てることに生きがいを感じています。
3) 臨床面では、黎明期より腹腔鏡手術に関わっており、近年ではロボット支援下腹腔鏡手術を導入し、若い教室員に技術指導をしてきました。女性泌尿器科領域でも低侵襲手術を導入していますが、これまでに 7 名の女性医師が入局し、大分県各地の病院で女性患者のニーズに応えられるよう努めております。いち早く女性外来の導入も行い、女性患者の目線そして女医の目線での診療を普及させました。
4) 医療安全面では、医療安全管理部運営委員会やリスクマネジメント委員会の部長や委員として、約 20 年にわたって携わってきました。また 2006 年から感染予防対策委員会委員として、本院の感染制御にも熱心に関わっています。医療安全や感染予防に関して、実臨床に基づく該博な知識をもって意欲的に対応してきました。
5) 基礎研究では、悪性腫瘍と外尿道括約筋幹細胞による再生医療の研究を行っています。悪性腫瘍では前立腺癌の低酸素環境による悪性化や腎癌ゲノム異常について研究しています。外尿道括約筋幹細胞の研究は世界でも類がなく、国内外から高く評価されています。教室員の海外派遣にも熱心で、6 名が米国 Harvard 大学や Emory 大学、Pittsburgh 大学等に留学しています。大分大学から世界に新知見を発信することを怠らず、そのための努力を惜しむことはありません。
6) 地域医療への貢献としては、常勤医を大分県下 18 病院に、非常勤医を 25 施設に派遣しており、大分県全域で貢献しています。また、大分県人工透析研究会と大分県臓器移植医療協会の代表を務めていますが、九州人工透析研究会や九州腎臓移植研究会の代表も歴任しており、大分県にとどまらず九州全体の腎不全医療に貢献してきました。また、2012 年には大分県排尿リハビリテーション・ケア研究会を設立し、代表世話人として他科医師や看護師、療法士、介護福祉士等の多職種医療者と協働して排尿ケアに取り組み、高齢者の医療・介護に貢献しています。
7) 病院の運営については、血液浄化センター長や材料部長、医療安全管理部長、クオリティーマネジメント室長を歴任しており、2012 年より本院副病院長として病院運営・経営に意欲的に携わっています。

以上のように、三股教授は学識に優れた人格者であり、泌尿器科領域にとどまらず、本院全体の責任者すなわち病院長としての資質が十分にあると考えます。本院の理念である「患者本位の最良の医療」を真摯に追求し、さらに高度先進医療の開発と提供を通して、倫理観豊かな医療人を育成し、地域社会の福祉に貢献することができると信じております。病院の収益向上や医療改革にも積極的に取り組んでいただけると考え、病院長として推薦します。